

2016 年度成果の説明書

(氏名) 大島 登志彦	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項 「・」で関連調査の出張日と内容を記す。 公表された具体的研究成果(論文・講演・監修資料等)を○番号で記す。</p> <p>[I] 「蚕糸絹文化の地域・学校における教育実践とその効果」(要約表題) (一般財団法人 大日本蚕糸会からの蚕糸絹科学文化支援事業補助による研究) 大日本蚕糸会は、平成 25 年度から、学校での有益な教育実践を「蚕を学ぶ奨励賞」として、28 年度までに全国の 14 校を表彰してきた。本研究では、ゼミナール所属の学生・院生とともに、長年ユニークな教育実践を続けてきてこれを受賞した学校を、可能な限り訪問調査する(14 校中 8 校訪問)ことを、第 1 研究課題とした。訪問校各々で、地域的特長や新たな発見があったが、次の傾向が複数の学校共通で、それなりの教育成果を築いてきたことが考察できた(下記①)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の元養蚕農家やボランティア、PTA 等が支えている。 ・ 校庭や隣接地域に桑が数本以上植えられ、その生育と桑葉を養蚕に活用している。 ・ 校内の一端に歴史資料室(展示スペース)が設けられている。 <p>第 2 の研究課題として、群馬県にて平成 15・16 年度に群馬県世界遺産課主導で行われてきた小中学校対象の絹文化継承プロジェクト(小学校：学校で養蚕を実践してその繭から採れた糸で校旗を作成、中学校は 15 年度に地域の絹遺産・文化の歴史調査が企画されたが 16 年度はなし)を継続研究(下記②③に 15 年度の研究成果)し、その参加校の分布特性などを考察した。そのなかで、参加校は地域や市町村毎に偏在し、とりわけ、北毛地域の学校の参加が少ないことなどが考察された。</p> <p>また、14 年度に行った富岡製糸場来場者の動向と意識のフォローアップとして、同様の現地アンケート調査を行い、今回の第 3 研究課題として成果に組み入れた。全体の来場者数が最大だった 14 年度の 2/3 程度に落ち込んでいたため、アンケート協力も難しくなっており、同じ日数で 2/3 程度の票しか集まらなかったが、来場者の居住地の傾向や旅程には大きな傾向の変化はみられなかった。</p> <p>年度末に、下記の表題で、報告書を作成して、研究成果発表会を、群馬県教育委員会教育長笠原寛氏の記念講演を含めて行った(下記①)。群馬県教育委員会ははじめ、世界遺産課など、県庁の関連各課職員をはじめ、自治体や蚕糸・交通運輸業界などの要職に就く方々など 60 人以上が参集して下さり、有意義に開催することができた。</p> <p>① 『蚕糸絹文化の教育・文化を考える』(3 月 5 日に高崎経済大学で研究発表会を開催し、同題の報告書(2015 年 3 月、発刊)を作製)</p> <p>② 「『蚕糸絹文化の教育効果と将来への継承』に関わる調査報告」『シルクレポート』No.49. 2016 年</p> <p>③ 「『富岡製糸場と絹産業遺産群』の世界遺産登録と地理教育における蚕糸絹文化」『地理教育研究の新展開』(2016 年、古今書院)</p> <p>表彰校訪問に関連した主要フィールド調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月 25～26 日：山形県内の上記表彰 2 校と「夕鶴の里」、伊達市「歴史文化資料館」等 ・ 1 月中旬：埼玉・群馬県内のこれまでの上記表彰 4 校 	

・1月27～28日:川俣町富田小学校と同町内「シルクピア」、伊達市「泉原養蚕展示室」等

【II】路線バスの案内資料作成の監修業務(を通して)

(1)「沼田市域の路線バス案内」(A2 サイズ片面カラーのチラシ③-1)と「沼田市域路線バス時刻表」(オールカラー32頁③-2)の作製業務(いずれも17年4月現在)

(2)「東吾妻町の公共交通案内」(A2 サイズ片面カラーのチラシ④)(17年3月現在)

沼田市は、平成13～15年度までの3年間、路線バスの利用促進等の検討と上記の作製を受託研究として行ってきたが、今年度からは、そのデータを沼田市に提供して、大島が監修しながら市役所の担当課(生活課)が編集・作製する形態とされた。

東吾妻町については、15年度、地域交通活性化協議会(役場企画課に事務担当)が独自に「乗合バス案内」(A3)を、上記沼田市のものも参照して作製した。16年度、大島が同協議会の委員・議長としてメンバーに加入して、会議の取り纏めとバスカード導入の必要性とその効果、吾妻高校の閉校を踏まえたバス路線の再編提案等を行った。そして、年度末に当「乗合バス案内」を改訂・大判化(A2)してリニューアルするに際して、改善ポイントと提案を行いながら、監修業務を行った。

16年度末に作製された上記表題の両市町の路線バス案内について、前年度に比べて改善・整備・拡充された点は、以下の通りである。

- 1.両市町共通:新たに発生したJR上越・吾妻線の新前橋発着列車の最適な表記を提示
2. // :各市町に隣接する路線の適正な案内の表記を提示
- 3.小型車両で運行される閑散路線の枝路や末端区間のデマンド運行導入と経路を提案
- 4.鉄道など他の交通機関との接続改善等についてのダイヤの再編を提案(定時定路線型)

この業務や調査を通して、群馬県全体の路線バスの実態や情報資料の必要性を認識し、地域貢献と筆者自身の研究素養を深められたと考える。

【III】「列車やバスで行く群馬の旅」⑤(B5縦長半分で32頁)パンフレットの監修(群馬県観光物産課からの受託研究業務、8月～9月)

群馬県が設定した観光キャンペーン期間(10～12月)に合わせて、公共交通を乗り継いで観光周遊して温泉に宿泊するモデルコースを紹介して観光物産課が企画・作製した当冊子(15年度と同様の体裁)の監修業務を行った。具体的には、群馬県内及び周辺各所の路線バス運行事情やバス停の時刻表示確認などのための現地調査を随時行った。この業務を通して、地域社会や観光客に貢献できたと考え、大島自身、群馬の地域交通の課題を新たに認識し、今後の研究に生かすことができた。

【IV】地域課題研究「高崎市域における路線バスの課題と利用促進に向けた研究」

高崎市内の路線バスの利用促進と活性化、そのための適正な資料とその作成のあり方などを研究した。また、高崎市でも導入できそうな国内の路線バスの実態調査と資料収集のための出張を行った(下記)。今年度は、廃止代替バスでスタートした合併地域の5路線について、モデル地域の実態を盛り込んで改善提案する。

また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録後、それらに向かう公共交通時刻表を作成してきた(A4サイズ、年毎に2回改訂)。その様式で、上野三碑、群馬の森

(群馬県立の歴史博物館・近代美術館)と高崎市歴史民俗資料館、旧群馬町内の博物館(日本絹の里、土屋文明文学館など)への公共交通案内を作製した(報告書に添付)。

- ・9月24～25日：鹿島鉄道廃止後のBRTと鹿行地域で運行開始した広域連携バス等
- ・10月26日：只見・鬼怒地域(観光乗合タクシー、地域連絡バス(只見・田島間)、水陸両用バス)
- ・1月7日：流山市の交通事情(流鉄・コミュニティバス・一般路線バスが混在)
- ・1月25日：新潟市と近郊(燕三条→弥彦、新潟市のBRT、鉄道を核とした新津地区)
- ・3月11～13日：和歌山県東部(阪堺電鉄、和歌山電鉄、紀の川・かつらぎ市町のバス)

[V]本学研究奨励費配当「群馬の産業遺産の多角的考察と活性化に向けた研究」

蚕糸絹遺産とあわせて群馬に点在する鉄道文化財や鉱業遺産を主体に、各地の産業遺産の観光振興の実態と取り組み、そこへの二次交通などを調査研究した。顕著な鉱山でありながら寂れて放置されているものでも観光資源になりえる地域、他の観光資源と連携させて相乗効果を生みそうな遺産、一級の遺産でありながら知名度と二次交通が不備で観光資源になり難いものなどの事例が考察できた。また、世界遺産登録された国内の資産(平泉・石見・富岡製糸場・明治日本の産業革命遺産=主に九州・山口・釜石・蕨山等)については、群馬の事例も含めて、二次交通は、新規に多少充実したものが多く、その利用は総じて乏しく(自家用車利用が主体になっている)、初年度限りで縮小された地域が多い。なお、特異でユニークな遺産でもある軍艦島については、複数会社が上陸を含むツアーを設定して、観光資源に定着していることが考察された。関連フィールド調査(主要調査箇所を併記)

- ・6月10～12日：岩手・青森県内(松尾鉱山、安部城鉱山=下北、橋野高炉など)
- ・8月29～9月1日：北海道中央地域(日高、道央の炭鉱跡数箇所、倶知安鉄山、増毛等)
- ・3月20～23日：北九州(門司港地区、長崎=池島炭鉱跡・軍艦島・グラバー園等、嬉野)

[VI]通常の研究活動の中での成果

(1) 著しく貢献できた学会活動

- ・鉄道史学会：2016年9月から会長を務める
- ・産業考古学会：理事として学会運営に参画
- ・全国地理教育学会：創立10周年記念出版執筆(上記③)、功労者として表彰

(2) 『交通新聞』の「交通評論」欄に連載⑥

- ・2016年5月30日「振り返る『白鳥』の歴史」
- ・2016年8月8日「峠=pass 今昔雑感」
- ・2015年10月17日「SLの運転と地方創生」
- ・2015年12月26日「鉄道が持つステイタス」
- ・2016年3月13日「鉄道忌避と地形」

(3) 日本交通政策研究会の研究プロジェクト

「観光地への公共交通アクセスの変遷と役割、効果に関する調査研究」研究に参画
交通地理学・交通経済学の分野を主体とした地域公共交通研究者が集まって、毎回2～3人の研究発表を通して、各地の事例を情報交換してきた。今年度は、表題のテーマで、指導院生の石関正典君と参加し、各々の長短所を考察して、観光地の路線バス

の実態と利用促進に向けた考察などを行ってきた(年度内3回の研究会)。

以上、○の論著は、『』に著名・「」で論文・分担執筆題目を記載し、特記以外は単著である。講演等は「」で題目を示し月日を記載した。出張は、学内研究費と上記1-[I]~[VI]の各枠組み予算で進めたが、執行時期・残額に応じて、別予算枠の出張もある。

2 その他の事項

[I]大学院生の学会発表や論文指導と学生・院生を引率したゼミナール報告書の作製等

・大学院博士後期課程院生(石関正典君・秋葉健君・吉田豊君)研究指導

そのなかで、院生指導と地域貢献の一環として群馬県地域文化研究協議会で企画・発表した研究をまとめて投稿・掲載(下記がセットで掲載)

「地図を活用した地理的視点からの地域調査」⑦(大島登志彦)

「群馬県における路線バスの盛衰と諸問題」(石関正典)

・ゼミナール卒業論集「地域調査研究論集第16号」の編集(2017年1月30日発刊)

[II]外部から委嘱された社会活動等の重要事項記載以外の主要業績

・群馬県立歴史博物館外部検討委員会委員(2014年11月~16年3月、近現代担当)

(同館の休館・全面改修に際して、展示方法や展示物を多角的に検討する委員会)

7月23日:同館再開(新規の展示に関わる指導助言と交通関係展示資料の作成協力)

9月2日:全体検討会に上記委員として参加し、今後の展示全体に関わる協議

12月25日:同館セミナー「群馬の近代産業の盛衰と産業遺産の概要」で講演⑧

・伊勢崎市コミュニティバス検討委員会(委員長、委員会2回開催)

・前橋市全市域デマンド化研究会委員(2012年5月18日発足、副代表)

(研究会議1回と前橋市公共交通マスタープラン計画推進調整会議(2月24日))

・群馬県タクシー準特定地域協議会会長

(8月25日:第3回群馬県タクシー準特定地域協議会が開催)

2015年5月29日:第2回東毛交通圏タクシー準特定地域協議会

2015年度を通して群馬運輸支局やハイヤー協会との制度や活性化に関わる協議